
帰り道で、私は思った。

郎

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰り道で、私は思った。

【Zマーク】

Z6822E

【作者名】

郎

【あらすじ】

高校生活が終わって、その卒業式も終わってしまった。私はひとり、帰路についている。

高校の、卒業式が終わってしまった。

友人たちは、就職し進学し浪人し、各自に忙しく、この土地を離れて生きていく。そのためなのかどうなのか、皆が皆、泣いていた。私は特別、悲しくなどは無かつたけれど、空氣に流れ泣いてしまった。

さて、私の進路はと言えば、家の近くの短大へ進学が決まっている。中々に行きたかった学校であり、おまけにさほどの学費はかかりはないのだ。

家を出る気は到底なく、母と父と弟と、四人仲良くなじむと、そうやって、しばらくは生きていきたい。

友人たちと帰路を離れ、私は一人歩いている。幾度も幾度も通っていた、通いなれたこの道を。大して、楽しい高校生活というワケではなかつた。つまらなくも無かつたけれど、そして楽しくもありはない。

けれど今だけは、最高の三年間だつたのだと偽つてしまえ。そうして紛い物でも感慨に溺れ、今日の日の空氣を青春としよう。一人で歩き、気持ちが良い、少しの寒さを肌に感じる。空は青い。晴れているのだ。なんておあつらえ向きな、まるで狙つたかのようだ。

ああ、今日は卒業日和だつたらしく。

私はひとり笑いながら、ふいに足取りを軽くする。

そうして浮き足立つた気分で、これからのことを考えてみた。

春休みには、人生初のバイトというのをしてみようか。今までやりたくなつたのだけど、部活部活で出来なかつた。私の好きなお店が、アルバイト募集の張り紙をしていた。ダメもとだろうと行ってみよう。そして店員になればいい。

進学したらどうなるだろう。メンバーは今までと変わるだろうが、

土地が同じなら変化は大きくないのだろうか。

何をしよう、私は何がしたいだろう。

私は、幼い子どものように考えていた。今の私は無邪気なようで、純粋な願いが頭をよぎる。

恋がしたいな、と私は思った。

まるで可憐な少女のように、唐突に、けれど純粋にそう思った。今まで生まれて18年、そんな事は、考えたことも無かつたのに。浮き足立つた話なんて、私には到底ありはしない。あつた事など一度も無い。

けれど私は今満たされて、更なる満たしを望んでいて。癒して欲しいと確かに思う。甘えさせてはくれないものかと。そして一人で楽しく過ごし、色んな事を語り合いたい。

まだ見ぬ誰かに胸を焦がして、私はふふふと一人笑った。

それに私はもう18になつていたのだ。恋する権利くらいはあるはず。

恋がしたい。

周りの華やかな女の子達は、きつともう、とつゝの昔に幾度もしている。なかには、恋に恋をしていた子だつていたけれど、それにしたところで、無いよりはずつとマシなのだ。

キスなら皆しているだろうか。処女を失つた子もいるのか。

溜息を付いた。浅く深く、溜息をついた。それから少し、鼻歌を歌う。折角の心地よい気分を、台無しにしたくは無かつたのだ。

誤魔化すように鼻歌を歌い、けれどそれはラブソングで。

私は、自分の失態に呆れてしまった。なんてことだ、こんな曲を、選ぶつもりはなかつたのに。

私は一人笑いながら、恋がしたいなど、確かに確かにそう思った。

(後書き)

後半の「恋がしたいな」系の所だけが先にあって、他は後からつけたしました。

何かこつぱずかしいような、純粹っぽいのが書きたくて仕方なかつたんです。

しかしながら季節はずれな(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6822e/>

帰り道で、私は思った。

2010年10月30日05時06分発行